

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37813
事業名	みどり資源の保全推進費					
評価担当課	所属名	建)みどりの推 みどりの管理課				
	課長名	高本 俊	担当者名	久保 文香	電話番号	011-211-2522
施策名	主	自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	森林の公有化により自然と調和した都市環境の形成を図るほか、公有化した森林について「札幌市都市環境林管理方針」に基づき森林の保全と活用を図る。また、私有林の森林整備や地域材利用を促進するため、補助事業を創設する。			
		長期	今あるみどりを守り、豊かな自然と調和した都市環境の形成を図る。			
	取組内容	自然環境・景観及び防災上などの公益的機能上特に保全が必要な森林や、開発の恐れがある森林を、計画的に取得（公有化）するとともに、「札幌市都市環境林管理方針」に基づき、森林の保全と活用を図る。また、市内の森林の公益的機能の発揮や資源循環を進めるため、私有林の森林整備や地域材利用を促進する。 ①南沢第二都市環境林の用地買戻し、②森林の間伐の実施、③施設整備（看板設置）④札幌市森林整備事業補助金				
	実施結果	①南沢第二都市環境林の買戻しを行った。（2.4ヘクタール） ②有明都市環境林の間伐（4ヘクタール）を行った。 ③看板設置（山の手 5基）、木道設置（西岡 16基） ④札幌市森林整備事業補助金交付				
事業実施における工夫点	効率的な間伐作業を行うため、前年度につる切りや調査を実施。また、森林整備補助に関する竣工検査について、効率的に計測できるデジタル機器を活用した。					
対象者	市民、事業者	開始	平成27年度	終了	令和4年度	
関連法令・条例・要綱等	都市緑地法、都市計画法、森林法、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律、札幌市都市環境林等事業実施要綱、札幌市森林整備事業補助金交付要綱					
他都市の状況	他都市（政令市など）においては、特別緑地保全地区の買戻しを実施している。また、横浜市において森林に関する計画を定め、公有林の保全管理を実施している。					

◎事業費

（単位：千円）

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	75,998	86,000	75,647	69,000	
うち特定財源	65,000	58,000	58,000	58,000	
人工	3.4	3.7	3.7	2.4	
人件費	24,480	26,640	26,640	17,280	
計（事業費＋人件費）	100,478	112,640	102,287	86,280	
事業費の内訳	令和3年度決算	①南沢第二都市環境林の一部買戻し 64,496千円 ②間伐（有明地区） 2,500千円 ③看板、木道設置（山の手、西岡） 3,000千円 ④札幌市森林整備事業補助金交付 5,651千円			
	令和4年度予算	①南沢第二都市環境林の一部買戻し 47,000千円 ②月寒東特別緑地保全地区の買戻し 18,000千円 ③間伐、看板設置等 4,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	公有化した森林面積			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	1,736ha	1,738ha	1,739ha	1,741ha	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	都市環境林で活動している森林ボランティア団体数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	20	23	16	16	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	事業の実施により、公益的機能を有する森林を公有化し、自然環境の保全を図ることができた。また、人工林の間伐等の実施や私有林の森林整備に対する補助金の交付によって、森林の公益的機能の発揮に寄与した。また、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、16の森林ボランティア団体が活動を行った。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	毎年一定量の森林公有化と市有林の間伐を行っている。また、私有林の間伐遅れの状況に対して、令和3年度より私有林の森林整備に対する補助事業を開始することで、間伐と作業道の開設が進んだことから、事業規模として適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	公有化は森林を保全する手段として担保性が高いうえ、公有化した森林に対しては間伐を積極的に進められることから、手法として適切である。また、私有林の森林整備を進めるため、札幌市の森林の状況に適した補助金交付事業を札幌市独自で開始したことは、手法として効果的である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	今あるみどりを守るため、森林を将来にわたって保全し、間伐を行いながら活用を図ることは、札幌の街が好き理由(意識調査)として「緑が多く自然が豊か」が上位になる札幌市民のニーズに合致している。また、森林整備事業補助金については、国の森林整備補助金の対象とならない間伐等を対象としており、これまで整備を進められなかった私有林所有者のニーズに合致している。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	今後も計画的な森林の公有化を進めるとともに、市有林と私有林の森林整備を加速化する必要がある。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	森林の公有化及び間伐等についても事業量を達成しており、事業目的である自然と調和した都市環境の形成が図られた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 引き続き私有林を対象とした森林整備補助事業を進めるとともに、市有林の森林整備を加速化する。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 森林整備に係る事業量の拡大を目指し、予算の拡充を図る。		見直し効果額	0